

平成27年度第5回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成28年3月2日（水）16：00～18：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、松浦委員、高田委員、斎藤アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

構想力及び実践力を目指した分野横断によるオープンイノベーションのPBL型授業モデルについて、3月4日の産学連携人材ニーズ交流会で説明する「大学教育での構想力の育成について」の説明資料が提示され以下の検討が行われた。

- ・ 説明の順番として、「分科会の目標」「イノベーションに関与できる人材の必要性」「イノベーションをおこすポイントと人材育成へ向けて」「IoT ベースでイノベーションを起こす力」のスライドが説明され、問題発見・解決の言葉の確認やIoTの専門用語表記を外すことで確認された。
- ・ 概要説明は「実践力を含む構想力育成のために」として、構想力を定義して構成要素を①観察・気づき、②発想・問題発見、③構想（問題解決）、④実践・見直しの4つに設定した。また、グループ活動力を入れていたが外すことにした。
- ・ 「情報通信系の構想力・実践力育成モデル」は、対象について、①観察・可視化（対象を把握してモデル化）、②問題発見・分析（仮説・検証）、③開発目的の明確化（達成へ課題の洗い出し）、④仕様実現工程（要求仕様・プログラム作成）、⑤導入・評価（成果を実際環境で評価）、⑥利用・運用（運用から問題点をチェック）を設定し、①～③を2コマ×15週、④～⑥を2コマ×15週で設定し、大学によってどちらを先に行うか、何年次に行うかなど組み合わせを想定した。
- ・ シラバスの例として、一つは、準備段階のシラバスの例で「講座のねらいと進め方」「ロールプレイによる準備」を全3回で設定した。二つは、①～③のシラバス例を12回で設定した。三つは、これで④～⑥の例を10回で設定した。
- ・ 対象の事例案としてスーパーマーケットでモデルを作成することにした。
- ・ 「デザイン・コンテンツ系の創造力育成モデル」として、①観察（独創性、ユーザビリティ、ユニバーサルデザイン、安心、セキュリティ、利便性などを整理）、②問題発見・仮説立案・モデル化（意図、目的、価値を考慮しプロトタイプ検討）、③課題設定（理想モデル作成から実現可能性を検討）、④実制作工程、⑤成果の検証（有効性の実験と条件達成の検証）、⑥見直し・改善（価値ある革新的なデザインを検討）を設定し、①～③を2コマ×15週、④～⑥を2コマ×15週の組み合わせを想定した。

V. 今後のスケジュール

- ・ 委員会での検討事項を反映させ、平成28年3月4日の産学連携人材ニーズ交流会で紹介することになっている。